

写

山口労発基 0119 第 2 号

平成 28 年 1 月 20 日

山口県デイサービスセンター協議会会長 殿

山口労働局長

転倒災害の防止に向けた取組について（協力要請）  
—「STOP！転倒災害プロジェクト」による転倒災害の防止—

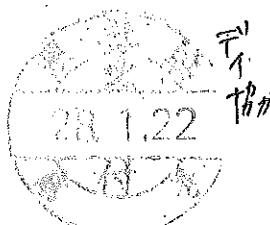
平素より労働行政の推進に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記については死傷災害のうち最も件数が多い転倒災害防止を図るため、平成 27 年 1 月から「STOP！転倒災害プロジェクト 2015」を開始し、関係各位におかれましても周知等にご協力をいただいたところです。

しかし、山口県内の平成 27 年 12 月末現在の速報値ながら休業 4 日以上の死傷者数は 1,183 人（前年同期比 +104 人、+9.6%）と、既に平成 26 年の確定値（1,184 人）とほぼ同数であり、前年を大幅に上回ることが確実な状況になっています。また、転倒災害も全体の 4 分の 1 を占め対前年比で大幅に増加しています。このため、平成 29 年までに平成 24 年の死傷災害件数を 15% 以上減少させることを目標とした第 12 次労働災害防止計画の達成のために、更なる取組が必要となっています。

このような状況を踏まえ、厚生労働省では昨年取り組んだ「STOP！転倒災害プロジェクト 2015」を、期限を設げずに継続することとし、本年から「STOP！転倒災害プロジェクト」（別添）として取り組むこととしました。

つきましては、貴団体におかれましては、当該要請について御了知いただくとともに、当該プロジェクトの推進についてご理解いただきますようお願ひいたします。



## S T O P ! 転倒災害プロジェクト実施要綱

### 1 趣旨

厚生労働省と労働災害防止団体は、平成27年1月20日から平成27年12月31日までを実施期間とする「STOP!転倒災害防止プロジェクト2015」に基づき、休業4日以上の死傷災害の2割以上を占める転倒災害の防止に重点的に取り組んできた。その結果、平成27年11月末速報値では、全国の転倒災害の件数は前年比で2.8%の減少となるなど、一定の成果が得られたところである。

しかしながら、転倒災害は依然として休業4日以上の死傷災害の中で最も件数が多く、平成24年同期比でみるとわずかな減少にとどまっており、平成29年までに休業4日以上の死傷災害を平成24年比で15%以上減少させることを目標とした第12次労働災害防止計画の達成のためには、更なる取組が必要である。

こうした状況を踏まえ、転倒災害の防止に関する意識啓発を図り、職場における転倒リスクの総点検と、必要な対策の実施により、職場の安全意識を高め、安心して働く職場環境を実現することを目的として、「STOP!転倒災害プロジェクト2015」を発展・継続させ、「STOP!転倒災害プロジェクト」として実施するものである。

なお、プロジェクトの実効を上げるため、例年、積雪や凍結による転倒災害が多発する2月、全国安全週間の準備月間である6月を重点取組期間とする。

### 2 主唱者

厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会

### 3 実施者

各事業場

### 4 主唱者の実施事項

転倒災害はすべての業種に共通する課題であるが、その防止に当たっては設備的な改善とともに、労働者自身が安全意識を高め、労働災害防止活動に積極的に参加することが不可欠である。このため、事業者に対し、「転倒災害は労働災害であること」の理解を促すとともに、労使が一体となって、職場の安全意識が醸成・浸透されるよう意識啓発を図り、厚生労働省と各労働災害防止団体がそれぞれ自らの強みを生かして、以下の対策を開拓する。

#### (1) 厚生労働省の実施事項

- ① 転倒災害防止に係る周知啓発資料等の作成、配布
- ② ポータルサイトによる転倒災害防止対策に有効な情報等の周知
- ③ 本プロジェクトを効果的に推進するための各種団体等への協力要請
- ④ 都道府県労働局、労働基準監督署によるチェックリストを活用した事業場への指導

#### (2) 各労働災害防止団体の実施事項

- ① 会員事業場等への周知啓発
- ② 事業場の転倒災害防止対策への指導援助
- ③ 転倒災害防止対策に資するセミナー等の開催、教育支援
- ④ 転倒災害防止対策に資するテキスト、周知啓発資料等の提供
- ⑤ 転倒災害の防止に有益な保護具等の普及促進

### 5 実施者の実施事項

#### (1) 重点取組期間に実施する事項

##### ① 2月の実施事項

- ア 安全管理者や安全衛生推進者が参画する場（安全委員会等）における転倒災害防止に係る現状と対策の調査審議
- イ チェックリストを活用した安全委員会等による職場巡視、職場環境の改善や労働者の意識啓発

##### ② 6月の実施事項

職場巡視等により、転倒災害防止対策の実施（定着）状況の確認

#### (2) 一般的な転倒災害防止対策

- ① 作業通路における段差や凹凸、突起物、継ぎ目等の解消
- ② 4S（整理、整頓、清掃、清潔）の徹底による床面の水濡れ、油汚れ等のほか台車等の障害物の除去
- ③ 照度の確保、手すりや滑り止めの設置
- ④ 危険箇所の表示等の危険の「見える化」の推進
- ⑤ 転倒災害防止のための安全な歩き方、作業方法の推進
- ⑥ 作業内容に適した防滑靴やプロテクター等の着用の推進
- ⑦ 定期的な職場点検、巡視の実施
- ⑧ 転倒予防体操の励行

#### (3) 冬季における転倒災害防止対策

##### ① 気象情報の活用によるリスク低減の実施

- ア 大雪、低温に関する気象情報を迅速に把握する体制の構築
- イ 警報・注意報発令時等の対応マニュアルの作成、関係者への周知

ウ 気象状況に応じた出張、作業計画等の見直し

② 通路、作業床の凍結等による危険防止の徹底

ア 屋外通路や駐車場における除雪、融雪剤の散布による安全通路の確保

イ 事務所への入室時における靴裏の雪、水分の除去、凍結のおそれのある  
屋内の通路、作業場への温風機の設置等による凍結防止策の実施

ウ 屋外通路や駐車場における転倒災害のリスクに応じた「危険マップ」の  
作成、関係者への周知

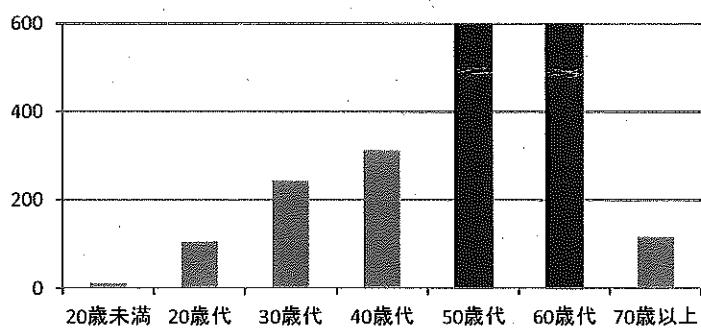
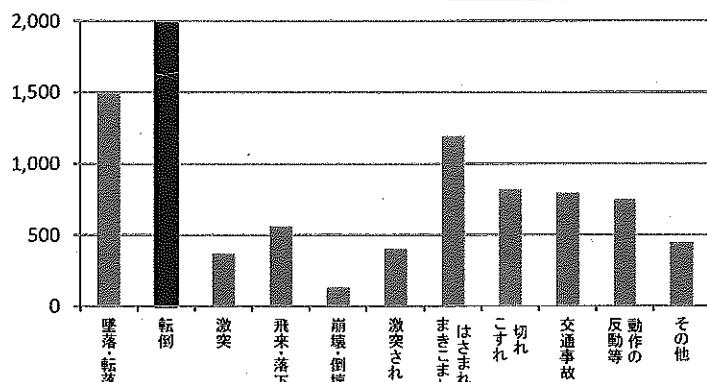
エ 凍結した路面、除雪機械通過後の路面等における荷物の運搬方法、作業  
方法の見直し

# STOP！転倒災害プロジェクト

～あせらない 慎く時ほど落ち着いて～

## 職場での転倒事故を減らしましよう！

転倒災害は最も多い災害で、どこの職場でも発生する可能性があります。職場での転倒の危険性は、働くすべての人が問題意識を持って原因を見つけ、対策をとることで減らすことができます。「転倒」という身近なテーマから職場の安全意識を高め、安心して働く職場環境の実現に向けて、「STOP！転倒災害プロジェクト」を引き続き実施します。**重点取組期間は2月と6月です。**



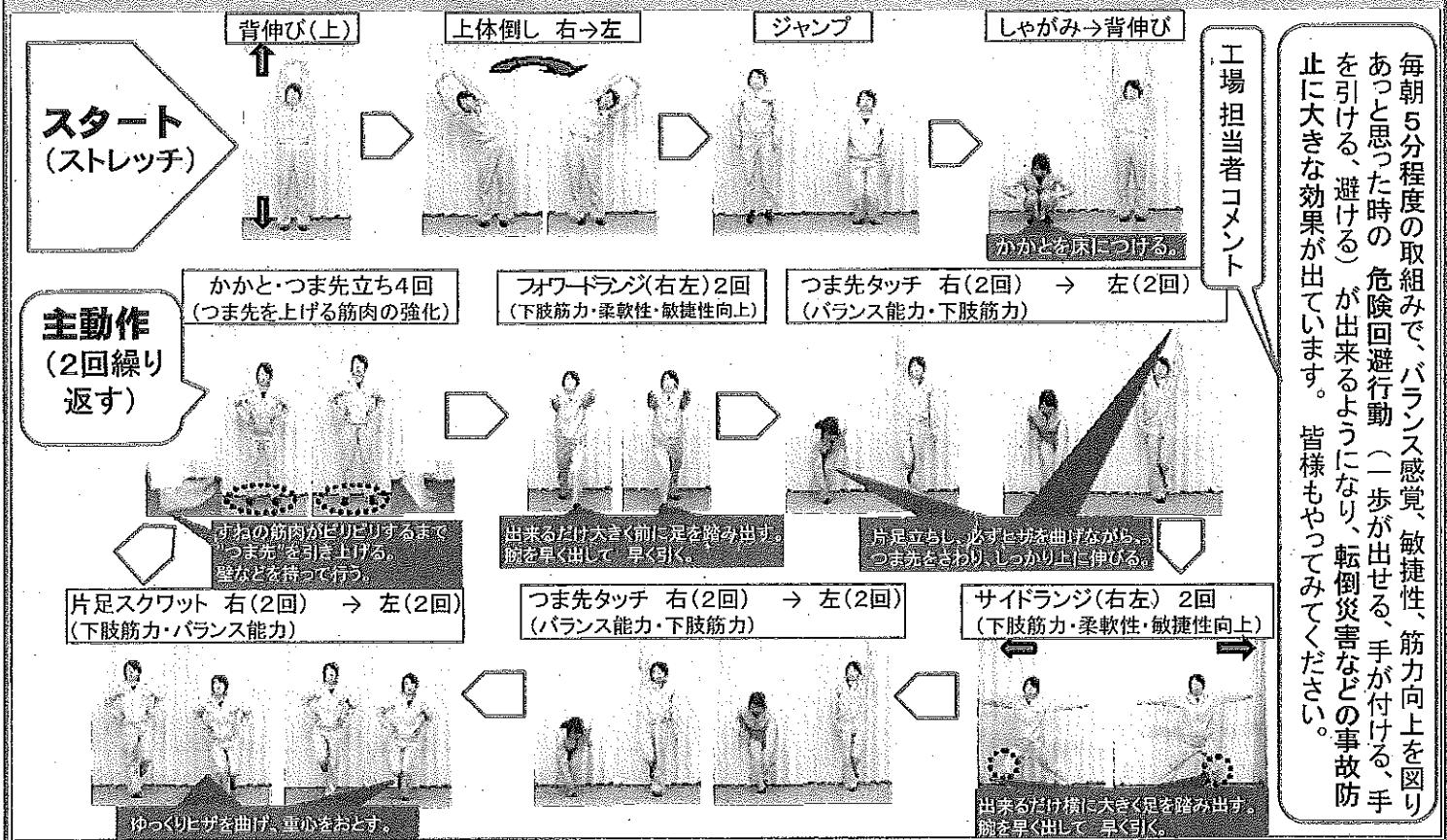
出典：山口労働局 労働者死傷病報告（H21～H27（速報値））  
（事故の型別は全産業、年齢別は「転倒」の内訳）

あなたの職場では、このような災害が起こっていますか？

業種	災害の発生状況	業種	災害の発生状況
金属製品製造業	工場内で発生した機械のトラブル処理のため駆け出したところ、作業通路上に散らばっていたネジを踏んで足を滑らせ転倒した。	飲食店	空の容器を抱えた状態で従業員通路の階段を降りていた時に、足元が見えず階段を踏み外してバランスを崩し転倒した。
ケガの程度		ケガの程度	
休業10日間		休業2ヶ月	
対策のポイント		対策のポイント	
<input type="checkbox"/> 足元に落ちた材料などは、速やかに片付けることを徹底する <input type="checkbox"/> 他の労働者が通ることを踏まえ、作業通路上に物を放置しない <input type="checkbox"/> 足元の障害物に気づけるよう、余裕をもった行動を心がける	<input type="checkbox"/> 運ぶ容器を小分けにするなど足元が見えるようにする <input type="checkbox"/> 大きな荷物を運ぶときは台車を使用する <input type="checkbox"/> 危険箇所には表示して注意を促す <input type="checkbox"/> 階段の昇降はゆっくりを心がける		

業種	災害の発生状況	業種	災害の発生状況
小売業	廉房で揚げ物をパックに詰めるため、容器を取ろうと前方にかがんだところ、床に飛び散った油で滑ってバランスを崩し転倒した。	小売業	パックヤードで商品の検品中に、レジのヘルプ連絡を受けて店内に向かう途中、台車に足を引っかけてバランスを崩し捻挫した。
ケガの程度		ケガの程度	
休業10日間		休業1ヶ月半	
対策のポイント		対策のポイント	
<input type="checkbox"/> 作業の都度、床の油などは放置せず取り除く <input type="checkbox"/> 滑りにくい靴底の履物を着用する	<input type="checkbox"/> 通路に物を置かない、整理・整頓をする <input type="checkbox"/> 作業通路を定め、定期的に職場を巡視する <input type="checkbox"/> 危険箇所には表示して注意を促す		

## 取組事例 (いきいき安全体操で転倒予防) ~資料提供:マツダ(群馬工場)



## あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましょう

チェック項目

未確認

- 身の回りの整理・整頓を行っていますか？通路、階段、出口に物を放置していませんか？
- 床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか？
- 段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか？
- 安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか？
- ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか？
- 職場巡回を行い、通路、階段などの状況をチェックしていますか？
- 荷物を持ちすぎて足元が見えないことはありませんか？
- ポケットに手を入れながら、人と話しながら、携帯電話を使いながら歩いていませんか？
- 作業靴は、滑りにくさを考えて選んでいますか？
- ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか？

重点取組期間は、2月と6月です。

2月～積雪や凍結による転倒災害が多い時期です。転倒災害防止の現状と対策を調査審議しましょう。  
6月～安全週間の準備月間です。転倒災害防止のための対策の実施（定着）を確認しましょう。